

「暗いオリーブ色」までの7色により判断するものです。胆道に異常があれば便が白っぽくなるため、保護者が便の色とカードを比較して白っぽいと判断すれば、小児科などの診察を受けて、早期発見につなげるようになるものです。新しくなる母子健康手帳は、4月から配布に向けて準備を進めており、「便色カード」については、母子健康手帳交付時や母親学級などで使用方法を説明し、医療機関との連携による相談体制の整備に努めることにしています。

また、4月で4カ月に達していない乳児については、母子関連予算でカードを購入して、現在実施している乳児全戸訪問事業や育児相談時に使用方法を説明して、啓発に努めていきたいと考えています。

エネルギー対策

問 再生可能エネルギーの取り組みについて

答 福島原発事故に伴い再生可能エネルギーへの関心が高まるとともに、新

たな固定価格買取制度も設置されたことで、今後ますます再生可能エネルギー導入の加速化が予想されます。

自然エネルギーは、自然の恵みを有効に活用したクリーンなエネルギーといわれており、地球温暖化対策などの観点から、非常に重要であると認識しています。

しかしながら、再生可能エネルギーには、コスト高、安定性の問題、大規模化の困難性などさまざまな解決すべき課題があり、直ちに原発を代替することは困難であると考えています。当市においても、国内外の動きに注目しながら、地域資源の活用や環境負荷の削減につながることも考慮しながら、さまざまな再生可能エネルギーの開発や導入について、調査研究を進めていきたいと考えています。

その中で、今年度、「大洲市バイオマス活用推進計画」を策定し、3月14日までパブリックコメントを実施しています。

来年度以降、この計画をもとに、具体的な事業の実施計画を立てて、進めていきたいと考えています。

また、原材料および供給先の確保、コスト、流通体制などさまざまな課題がある中、事業導入によるメリット、デメリットなどを慎重に分析した上で、大洲市にとつて最も有効な利用方法や経済効果、そして中山間地の活性化につながる方法を検討していきたいと考えています。

そのほか、太陽光発電をはじめ、小水力発電、風力発電の導入の可能性、バイオエタノール生産の可能性などについても、地域特性を反映させながら計画していきたいと考えています。

実証試験が計画されている河辺地区



農業活性化対策

問 沢ワサビの栽培実証事業について

答 現在ワサビは長野県、静岡県で全国の70%以上が生産されており、そのほか島根県、山口県の山間部においても生産されています。

今回当市においても、高冷地における地域の活性化、新規作物の開拓、特産品の開発を目的として沢ワサビの実証栽培を試みることにしました。

ワサビの適地としては、水量が豊富で水温、気温ともに低めで安定し、ある程度の標高が必要とされており、アマゴなどの養殖でも実績のある河辺地区での実証試験を計画しています。

この事業では、河辺地区の自生種を含めた数種類の品種試験と、水の流れを変えた比較試験を実施する予定ですが、各産地で採用されている栽培方法も参考にしながら実証を行っていきたいと考えています。

なお、生育が早い品種であっても、収穫までには約2年程度の栽培期間が必要

とされていますので、約5年間は研究、改善を図りながら栽培指針を作成していく計画です。

また、栽培管理については、実証施設近隣の河辺地区の農家に協力をお願いして、実証栽培を行う予定です。

原子力発電所問題

問 再稼働について

答 今年1月13日に伊方発電所の2号機が定期検査に入り、3基すべてが停止している状況です。

これにより、四国の電力供給はかなり逼迫した状況となっており、昨年夏の最大使用電力は、8月9日の544万kwでしたが、このままの状態が続くようであれば、夏場の電力供給は大変厳しい状況になるといわれています。

電力は、四国の住民生活、各種産業の基盤であり欠かすことができないことから、自然エネルギーなどへの転換を進めつつ、当面伊方原子力発電所と共存すること